CAS
News Letter
Center for Asian Studies, Kanagawa University
神奈川大学アジア研究センター
No.15 July,2021

Contents

《個別奨励研究報告》
「異なる地域と親族集団に伝わる『盤王大歌』の異本の解読」 廣田 律子 …… 1
《オンライン講演会報告》
「アジアの政治発展」公開講演会報告 村井 寛志 …… 4
《オンライン講演会報告》
「アジアの社会遺産と地域再生手法」公開講演会報告 上野 正也 …… 5
《オンライン研究会報告》
「アジアの政治発展」学内研究会報告 大川 千寿 …… 7
《オンライン講演会報告》
「植民地国家と近代性:アジア諸国を中心とする比較研究」公開講演会報告
泉水 英計 …… 8
2020年度活動報告（2020年10月～2021年3月） …… 9

2020年度アジア研究センター個別奨励研究報告

研究課題

異なる地域と親族集団に伝わる「盤王大歌」の異本の解読

廣田 律子

研究の目的:

本研究ではミエン・ヤオの伝承する神話上の救世主とされる盤王に対して、中国・タイ・ベトナムで今なお実施されている謝恩儀礼(「歌堂」儀礼・ゾウダーン)において共通して使用される、ミエン・ヤオの神話と歴史が記述された漢字経典の通称『盤王大歌』を取り上げて、その経文について録文の作成、校訂さらに解読を進める。異なる地域の異なる親族集団に伝承されている複数の『盤王大歌』の写真を収集済みであるので、複数の異本を比較対照させることにより、プロトタイプとバリエーションの痕跡の抽出を試みることで漢字経典『盤王大歌』が祭司間で長年にわたって書写され続けてきたその歴史的経緯を明確にすることを最終的な目的としている。

研究の特色:

中国南部および東南アジア大陸部に移動分布するミエン・ヤオは共通して飄遙過海と称される先祖の移住神話を伝承している。かつてミエンは南京八万山にいたが、寅と卯の年に大干ばつが起こり、海を渡ることになるが、途中遭難し、盤皇・盤王(ビエンフン)に願掛けをし、救護され上陸できたので、救世主盤皇・盤王への願ほどきの謝恩儀礼を行い、その後分散移動をし続けたという内容である。

現在も盤王への謝恩儀礼は中国・タイ・ベトナムで実施されており、儀礼で使用される漢字経典の経文にはこの飄遙過海神話や神々の所業が記され、曲節を付し誦経される。

漢字経典の経文の解釈は、その難解さ由に従来の研究では進んでいない。漢族の道教や民間の法教や周辺の諸民族の影響だけでなく、ミエン・ヤオ独自の神観念・霊魂観・死生観が反映されているため解読を難しくしている。しかしミエン・ヤオの儀礼の理解を進めるためには、漢字経典の経文の解読は避けて通ることができない課題である。

すでに過去の調査においてベトナム・中国・タイで収集した複数の異なる親族集団に伝承される同一タイトルの複数の異本の比較対照を行うことで、解読の精度を上げることが可能となる。そのためにミエン・ヤオのアイデンティティーを象徴する神話や歴史が記述されている通称『盤王大歌』の複数の異本を使用し文字の確定と録文を作成するだけでなく、異本を対照させて校訂を行った上、解読を進め日本語訳を施す。さらに比較対照の資料の分析を進め、ミエン・ヤオの

分散移動過程における変遷や影響関係や系統等を実証的に解明する。

本研究により、居住地では少数民族としてその文化的価値が十分に評価されず、近代化により次世代への継承の危機を迎えているミエン・ヤオの儀礼文化が人類文化として認知されることに繋がり、ミエン・ヤオ自身が自文化を捉え直し、次世代への継承の支援に繋がることになる。

具体的には、比較解読するための基礎資料を作成するためにベトナムの異なる地域の異なる姓の祭司が伝承している手書きの漢字経典『盤王大歌』の文字の判読・入力作業を行った。

前提となるこれまでの研究:

中国においては、2008年11月に実施された最大規模の通過儀礼(度戒・トウサイ)、2006年1月に馮家、2011年11月に大盤家、2015年12月に小盤家、2017年1月に趙家で実施された、中規模の通過儀礼(還家願・クゥーターン兼ゾウダーン)の儀礼内容および漢字経典の把握のほか、異なる親族集団の事例を収集した。

タイ北部では通過儀礼調査(2014年1月、2018年11月)、ベトナムでは通過儀礼を含む複数の儀礼および漢字経典に関する調査(2015年3月・9月、2016年2月・8月、2017年2月・9月、2018年1月、2019年1月)を実施した。通過儀礼では盤王への祭祀において漢字経典の『盤王大歌』を誦経する「歌堂」儀礼が実施されるが、この複数の異本を撮影した。

この間2008年度～2011年度科学研究費補助金 基盤研究(B)20401013、2012年度～2014年度科学研究費助成事業 基盤研究(B)24401018、2014年度～2015年度神奈川大学アジア研究センター共同研究「湖南省藍山県過山系ヤオ族の言語学的研究」、2016年度～2018年度神奈川大学共同研究奨励助成金「ヤオ族の儀礼における文献と読誦歌唱法の総合的研究」を獲得して実施した。

中国の還家願儀礼の内容について使用される漢字経典の使用の実践から明らかにしようとした研究としては、「湖南省藍山県過山系ヤオ族(ミエン)の祭祀儀礼にみる盤王の伝承とその歌唱」(廣田律子『歴史民俗資料学研究』第20号 pp.103-146 2015年)、「儀礼における歌謡―「大歌」の読誦詠唱される還家願儀礼を事例として―」(廣田律子『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』pp.1-53 2016年)等がある。

今回の個別奨励研究の成果:

今回ラオカイ省トンパチ村の趙承銀祭司とイエンバイ省ラハパン村の盤財林祭司とラオカイ省タインキム村の趙徳明祭司の所有する『盤王大歌』の翻刻作業を進めた。

特に3冊目は2019年に趙徳明祭司が実施した趙家の大願成就を祝い盤王に感謝を表する「歌堂」儀礼を調査した際、1月29日から30日の1昼夜を掛け誦経される状況を把握している。

具体的には祭壇が入り口正面の大広間の祖先を祀る祠の脇に設えられ、盤王との約束に従い3年養った豚が屠られ供物とされた。その祭壇前で3冊目の『盤王大歌』が祭司と複数の男性によって誦経された。

3冊ともに上記のように祭祀の場で現役の祭司によって使用されている漢字経典である。趙承銀祭司は祭壇に飾るミエン・ヤオの神々の絵を描く絵師であり、絵の師匠と仰いだのが盤財林祭司である。師弟関係にある両祭司の使用する『盤王大歌』は完全に同一とはいえない。差異が何を意味するかは今後の研究によって明らかになると考えるが、伝承経路の違いや姓による違い等が想像できる。

例として文字の判読・入力を行った、趙承銀祭司と盤財林祭司所有の『盤王大歌』の盤王に関係する部分

趙承銀祭司所有『盤王大歌』ヤオ族文化研究所文献番号
V-42 (vhi20150911_0042-0160)

起計盤王先起計	盤王起計立春明 / 哀
立得春明 / 哀都便了	屋底大塘洞洞青 / 齊
起計盤王先起計	盤王起計閑犁耕 / 琶
鼠王過海偷禾種	王龍含水吩禾花 / 生
起計盤王先起計	盤王起計閑犁耕 / 耙
閑得犁耙也未使	屋底大塘穀包生 / 牙
起計盤王先起計	盤王起計閑犁頭 / 耕
閑得犁頭也未使	屋底秧兒段段生 / 青
起計盤王先起計	盤王起計立春明 / 哀
立得春哀都作了	屋底秧兒段段青 / 齊
起計盤王先起計	盤王起計種苧蘇 / 絲
種得苧蘇 / 絲兒孫織	兒孫代代綉羅衣 / 花
起計盤王先起計	初種苧蘇葉帶枝 / 求
苧蘇葉細便成苧	蕉蘇織細便成條 / 羅
起計盤王先起計	盤王起計閑高機 / 架
閑得高機織細布	布面又彫 (凋) 李柳絲 / 花

盤財林祭司所有『盤王大歌』ヤオ族文化研究所文献番号
V-85（vhi20150913_1541-9902）

起計盤王先起計	盤王起計立春受 / 明
立得春明都定了	屋背旱禾洞洞齊 / 青
起計盤王先起計	盤王起計閏犁（黎）耕（更）/ 鈀
鼠王過海偷禾種	龍王含水噴（吩）禾生 / 花
起計盤王先起計	盤王起計閏犁（黎）鈀 / 耕（更）
閏得犁耕（更）也禾使	屋背大塘（唐）穀豹芽（牙）/ 生
起計盤王先起計	盤王起計種苧痲 / 蕉
苧痲綰細不成苧	苧蔴圃綰細不成花 / 撩
起計盤王先起計	盤王起計種苧蔴 / 被
種得苧痲兒孫綰	兒孫世代綰羅花 / 絲
起計盤王先起計	盤王起計閏高加 / 機
閏得高加 / 機織細布	布面有條裡柳花 / 絲
起計盤王先起計	盤王起計閏高台 / 州
着苧盤王先着苧	着蕉 / 羅盤王先着蕉 / 羅
閏得高機織細布	三布押來四便齊 / 收
盤王着蕉世也好	盤皇着蕉 / 羅更逍遙（消撩）/ 流羅

16行と該当箇所の影印を並べてみる。

経文は漢字にヤオ語の訓読みと広東語や西南中国の音読みも取り入れた音をあて節を付け誦経するので、同音の異なる漢字をあててしまうこともある。

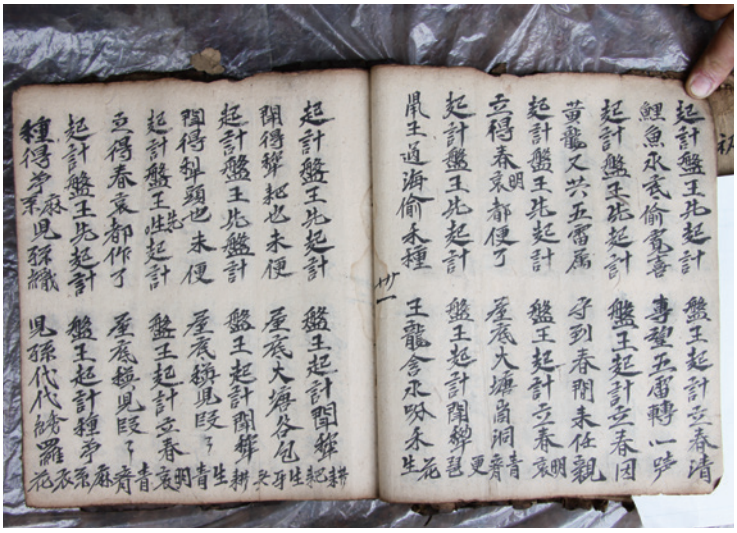
祭司が手書きで書き写すときにも書き間違いが起こることもある。

経文は七言を1句とし4句を1セットとするが、歌堂儀礼の際聞いた音の記憶を優先させたり、文脈に解釈を加えたりして、4句の入れ替えも起こる。

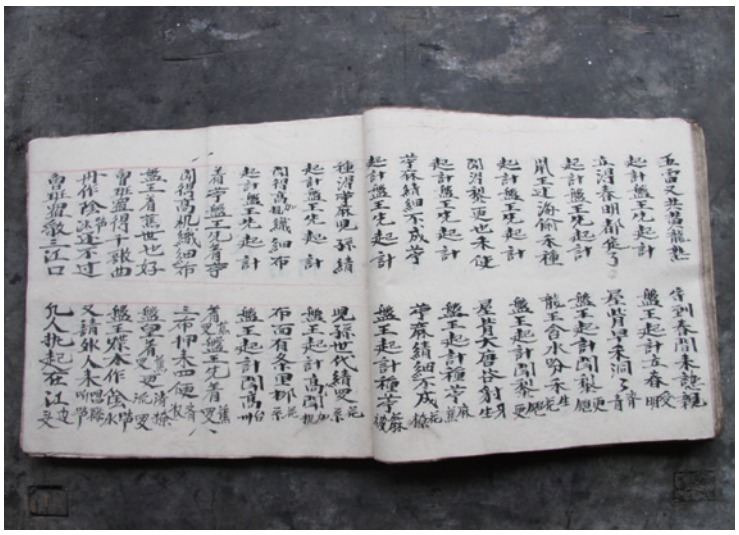
単純に手偏が木偏になったり、月が日に、日が月になったりということも頻繁に見える。

今後異本の分析を進めることで『盤王大歌』のプロトタイプとバリエーションの実態を明らかにしたいと考える。

（所員　神奈川大学　経営学部教授）



ヤオ族文化研究所文献番号V-42（vhi20150911_0084）



ヤオ族文化研究所文献番号V-85（vhi20150913_9851）